

カッコソウを知っていますか？



和名

カッコソウ（サクラソウ科）

学名

Primula kisoana var. *kisoana*

鳴神山の カッコソウ

カッコソウは、世界中で鳴神山周辺（群馬県桐生市・みどり市）のみに生育するサクラソウ科の植物です。春にピンク色のかわいい花をつけ、かつては“斜面一面がピンク色になった”といわれるほど、たくさん見られました。しかし近年、盗掘や生育環境の減少などにより、その生育域はとてま少なく、絶滅の危険性が高まっています。



四国にはカッコソウに近縁な「シコクカッコソウ」が分布していますが、遺伝子の解析により、カッコソウとは別の植物であることが確かめられています。

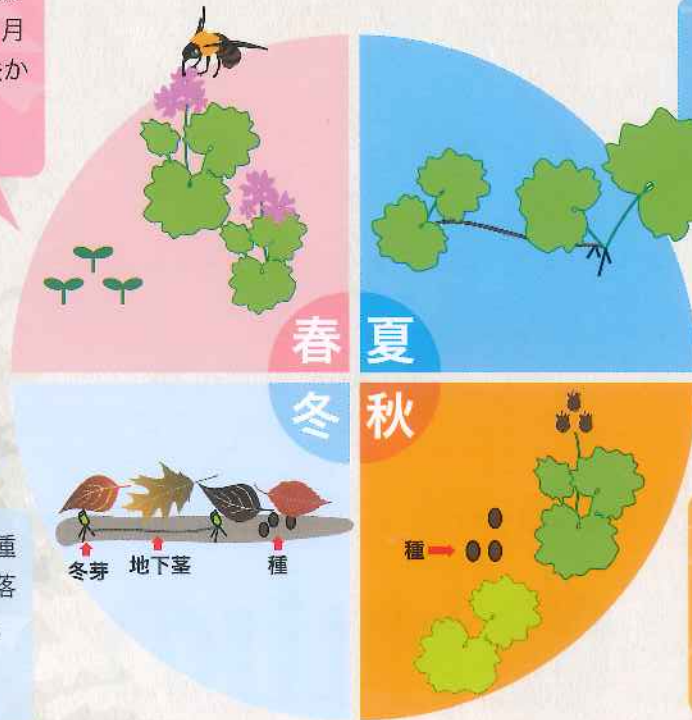


カッコソウの暮らし

カッコソウの四季

カッコソウは、春の早い時期から葉を開くため、春に地面まで十分な光が届く **落葉広葉樹林** に好んで生育します。

暖かくなると、落ち葉の間から芽を出し、葉を広げ、5月頃かわいいピンクの花を咲かせます。



葉は大きく成長し、地中では地下茎が伸び、その先からは新しい芽が出ます。

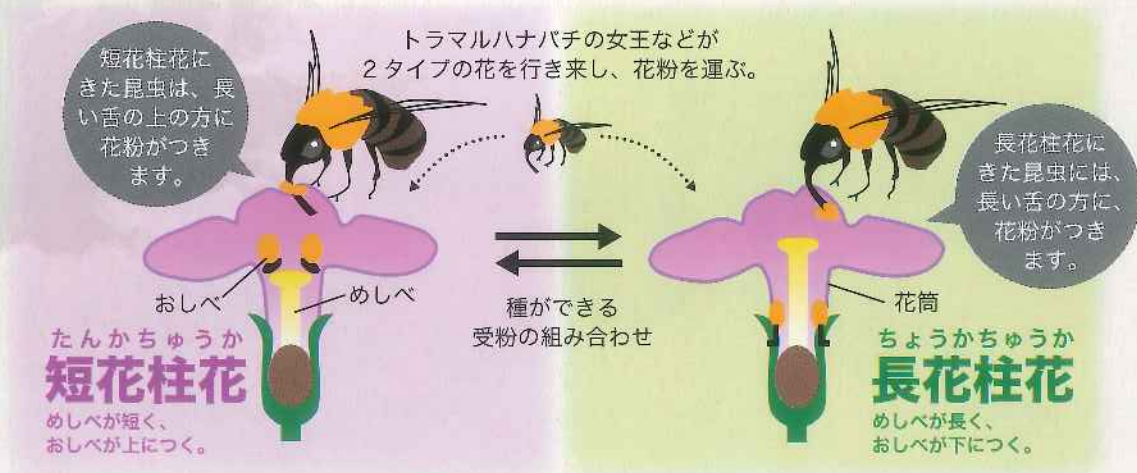
地上にはなにもなくなり、種や地下茎についた冬芽は、落ち葉の下で、春を待ちます。

実った種は地面に落ちます。寒さが増してくると、葉は枯れて無くなります。

花のひみつ

カッコソウは、どのように種子をつくるのでしょうか？

カッコソウには、めしべが短い「短花柱花」とめしべが長い「長花柱花」の2タイプがあります（花柱＝めしべ）。どちらの花を咲かせるかは、個体の遺伝子によって決まっています。カッコソウは、異なるタイプの花の間で花粉が運ばれたときに種子をつくることができます。このような仕組みがあるため、カッコソウが種子をつくるためには、**花のタイプが異なる（遺伝子が異なる）個体がいっしょに咲くこと、および個体間で花粉を運んでくれる昆虫が訪れること、が必要です。**



短花柱花にきた昆虫は、長い舌の上の方に花粉がつきます。

長花柱花にきた昆虫には、長い舌の方に、花粉がつきます。

たんかちゅうか
短花柱花
めしべが短く、おしべが上につく。

ちようかちゅうか
長花柱花
めしべが長く、おしべが下につく。

トラマルハナバチの女王などが2タイプの花を行き来し、花粉を運ぶ。

種ができる
受粉の組み合わせ

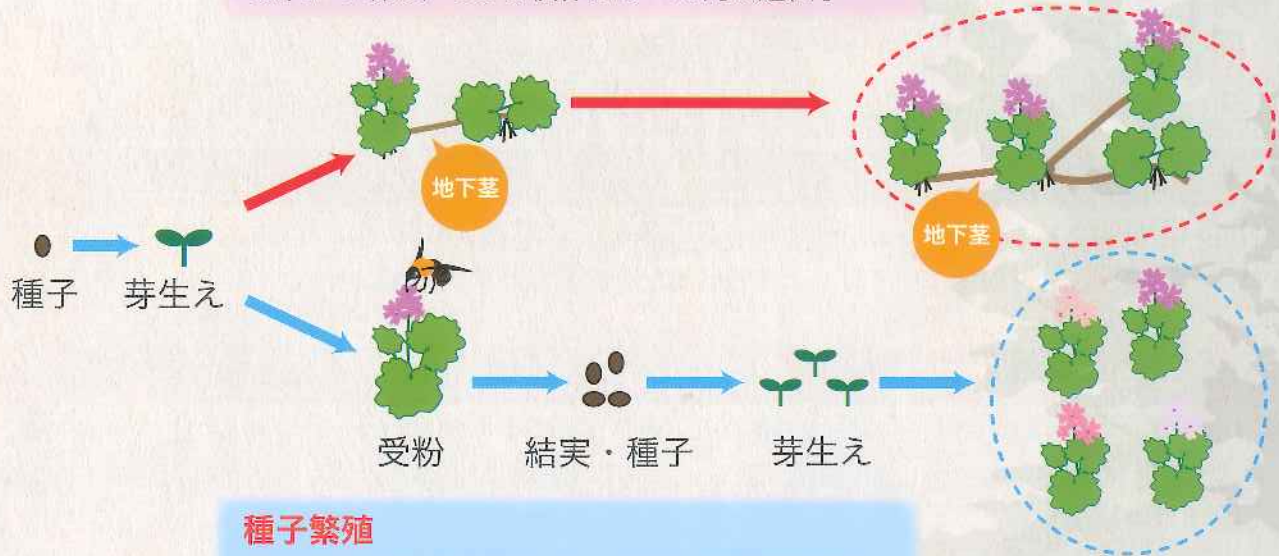
カッコソウの増え方

カッコソウは、地下茎と種子の二通りの方法で増えます。

地下茎の先にできる新しい株は、もとの株と同じ遺伝子を持つ「クローン」です。このため、地下茎による増殖は、**クローン成長**と呼ばれます。クローン成長で増えた株は、互いにほぼ同じ性質をもつため、特定の気候や病気などで全滅するおそれがあります。一方、**種子による繁殖**では、親と異なる特徴をもつ個体が誕生します。野外で長期的に存続するためには、種子による繁殖が行われることが重要です。

クローン成長

地下茎で増え、できる個体はすべて同じ遺伝子



種子繁殖

種で増え、できる個体は、すべて異なる遺伝子を持つ

遺伝子の多様性

カッコソウの花の色や形にはさまざまな個性があります。このような多様な個性は、遺伝子に多様性があることでもたらされます。



これは、全て
カッコソウの
花です。

カッコソウの現状



カッコソウは、現在、急速に減少しており、野生での個体数は 800 個体程度とされていますが、野生での遺伝子の数は、とても少なく 16 程度になってしまっています。また、これらの個体は互いに離れ離れになってしまっているため、花粉が十分に運ばれず、自然状態ではほとんど種子ができません。

このように厳しい状況にあるカッコソウは、平成 19 年以来、日本の絶滅危惧生物を集めたレッドリストにおいて絶滅の危険性が最も高い「絶滅危惧ⅠA類」に指定されています。さらに平成 24 年度には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(通称：種の保存法)」により、国内希少野生動植物種に指定されました。この指定により、許可のない採集や販売・譲渡は禁止されましたが、野生個体の危機的な状況は続いており、継続的な保存への取り組みが必要です。

カッコソウを未来に残していくためには、どうしたら良いのでしょうか？

❁ 野生のカッコソウをこれ以上減らさない

残念ながら、近年でもカッコソウが盗掘されることがあります。カッコソウの減少につながる行為にストップをかけるには、法的な規制だけでなく、地域の私たちの関心と監視が大切です。

❁ カッコソウだけでなく「鳴神山の自然」を守る

カッコソウは、花粉を運んでくれる昆虫をはじめ、さまざまな生き物とつながりを持って生きています。カッコソウが、これからも生育していくためには、カッコソウそのものだけでなく、周辺の環境も良好に保たれる必要があります。

❁ カッコソウ保全を出発点に地域の将来を考える

ふるさとの山、鳴神山の自然は、私たちに物心両面でさまざまな恵みをもたらしてきました。しかし、その自然も急速に変化しつつあります。カッコソウという「世界でここにしかない植物」の保全を入り口として、地域の将来にどのような自然を残したいか、いっしょに考えてみませんか。



啓発活動



移植地整備

<発行> 桐生市 市民生活部 環境課 〒376-8501 桐生市織姫町1番1号
<電話> (0277) 46-1111 <FAX> (0277) 43-1001 <E-mail> kankyo@city.kiryu.lg.jp
<協力> 西廣 淳 (東邦大学理学部)
<発行日> 平成25年6月発行

この事業は全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです。